津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111㈹
印刷所　旭印刷
電話(水俣)㊸4101番

一日一汗流そう

青少年を地域づくりの活動に参加させよう

（六月七日、全国環境美化行動の日）

空缶も積れば山となるよ、もうすてないで！

熊本県教育委員会、市町村教育委員会では、六月七日の「環境美化行動の日」にちなんで、青少年を地域づくりの活動に参加させる日（六月七日）を設定し、県下一斉に活動することによって、地域社会の構成員としての自覚を高めるとともに、今後の市町村における青少年活動の啓発と活性化を図ることを趣旨として「青少年一日一汗運動」を展開しております。

そこで今年度も、小、中学校に呼びかけ、それぞれ地区内の空缶、ビン類ひろいや、草刈り等を親と一緒に協力し合って実施、自分達が毎日通学している道路に、沢山のゴミ類が投げ捨てられていたことに今回もびっくりしていました。

本町では、以前から各地区において、公役として道路等の清掃や国道三号線の缶ひろい、赤崎婦人会による海岸線の清掃（二十年以上続いている）。又、道路沿いに住民の手による花の苗の植付等、外にも色々と行われていますが、来年度から子供達もまじえて、六月七日を「一日一汗運動の日」として、町民全員で一緒に一汗流そうではありませんか。

子供達が集めたゴミの山

親と子（その二）
ほめることと叱ること

ほめるときはその人を、叱るときにはその人のやったことを、ということも心得ていてほしいことのひとつです。つまり、「よくできたね。さすがに五年になると去年までとはちがうね」というほめ方です。これによって子供は自分の心が成長していることを自覚します。成長したことを親に認められたことが嬉しいのです。

叱るときは「それをしたのでこういう結果になったのだ。こうやればよかったのだ」というように行為に注目し、その好ましくない行為を叱ることにし、「やっぱりお前はだめだ」式の、子供のすべてを否定しないようにすることが大切です。

（続・父親は子供に何ができるか……　詫摩武俊　著より）

一言

戦後、女性は美しくなった。都会や農村に限らず、若い人も中高年も美しい。これは経済成長に伴い、物心両面にゆとりが出来たからだと思うが、戦後半世紀の短期間に、衣食住をこれ程までに変貌させた国は、日本以外には類をみないということである。先ず㊧は、洋食、中国食等々、和食をしのぎ、豊富で栄養的になり、㊨も色彩あざやかに店先に山積みされ、金さえあれば手に入るし、㊥も整ってきた。

だが警鐘はなり始めたのである。成人病患者は増加し、入院患者は外来を上廻り、住民は公害に侵され、食品添加物におびやかされ、酸性の雨に植物は枯れるとか。

ここで釈尊の「人間は住む所に生じている食物を、生じてくる季節に食べなさい。」というお言葉をじっくり考える時期にきているのではなかろうか。西瓜は真夏に食べるのが一番うまいし、衣類は綿が肌ざわりもよく、温かで涼しい。家はむし暑く湿気の多い日本には木材がよい。昔の人は体験して穀類魚類海草を食した。一口に言えば自然を愛し、自然に生きたのである。私は田舎で新鮮な野菜や手作りの食品に恵まれ感謝して、幸福であるが、都会の恵まれぬ人々の事が気になって仕方がない。

川内

広げよう婦人の和

婦人会ビーチボールバレー大会

健康づくり推進の一環として、去る6月28日「津奈木町連合婦人会ビーチボールバレー大会」が、B&G体育館において開催されました。

開会時間よりも、ずいぶん早く会場に来たのですが、既に、会員の皆さんで一杯で、割れんばかりのかけ声に圧倒されました。

午前10時開会、簡単な説明の後試合が開始されました。

今年は、一チームに50才以上を2名参加という事で、嫁姑、母娘が同じチームで一つのボールを追うという、うらやましい様な光景が見られました。

さて試合では、会員の皆さんの素晴らしいプレー、真剣な顔、又頭でボールをうける等の珍プレーも続出、日頃家庭を預かる婦人の仕事を忘れてのハッスルプレー、子供に返ったような笑顔を見、また、日頃運動不足になりがちな、婦人の健康づくり、各婦人会の親睦の和を広げるという意見でも、このビーチボールバレー大会は、婦人会活動の中でも、欠くことの出来ない重要な行事の一つであることを、つくづく感じさせられました。

今後もこのビーチバレー大会は、続くことと思います。この素晴らしい大会に、一人でも多くの婦人会員の方々の参加を心からお願い致します。

これからも婦人会活動を、深く御理解いただき、御協力下さいますよう、よろしくお願いいたします。

B&Gスポーツ県大会

去る、七月五日(日)、三角町において、第八回B&Gスポーツ熊本県大会が行なわれた。

本町かわも、水上、水泳、剣道の三部門に二十九名の小・中学生が参加した。

大会の前夜は、風雨が強く、大会の開催が危ぶまれたが、大会当日は、前日の雨がうそのような晴天で絶好の大会日和となった。

さて、本町選手は日頃の練習の成果を十分に発揮し、カヌー小学生男女、OPヨット中学生、水泳小・中学生男子と5種目で優勝、又、カヌー中学生男・女、ロード男・女、水泳中学生女子が二位と、大健闘をみせた。

今後も練習を重ね、来年の大会では、今年以上の成績を期待しています。

本町選手団

もっと速く!!（陸上記録会）

町民体育祭

梅雨も明け、本格的なスポーツシーズンが始まりました。

町民体育祭は一足早く、五月から開幕し既に、三種目が終了しています。（7月15日現在）

各地区レベルアップされており激戦が展開されていました。

町民体育祭も、まだ始まったばかりで、あと五種目残っています。各地区、総合優勝を目指し頑張って下さい。

3種目の結果は左記のとおり。

【男子ソフトボール】優勝・日当　二位・浜崎、三位・桜戸、古川

【女子バレーボール】優勝・日添　二位・倉谷、三位・染竹、上下門

【ゲートボール】優勝・上下門、二位・新川、三位・古川、浜青

去る、六月二十八日(日)、総合グラウンドにおいて、津奈木町陸上部の主催による、陸上競技記録会が行なわれた。

今回の記録会は四百メートルのトラックを使用し、正式な記録をとるということで、町内の小学生を中心に、約50名が参加し行なわれた。

この日行なわれた種目は、クラス別の百メートル、二百メートル、八百メートル、千五百メートル、五千メートルの5種目で、参加者は、それぞれ自分の得意とする種目に出場、少しでも速く走ろうとする意気込みが、スタート前から感じとれた。中には、はりきり過ぎて、前半でスタミナを使いきり、やっとの思いでゴールする選手もいた。

この日の参加者全員に、陸上部より記録証が与えられた。

真剣にスタートをまつ子供たち

お知らせ

津奈木海洋センターでは、夏休み期間中に海洋性スポーツ教室等を計画しております。

町内の方なら、どなたでも参加できます。（但し小学四年生以上）

参加希望者は、教育委員会又は海洋センターへ申し込んで下さい。

◎カヌー・OPヨット・ローボート教室。7月27日～29日、午後2時～4時30分

◎夏休み少年のつどい　7月30日～31日、一泊二日。

◎町民のための海洋スポーツ教室　8月2日、午後2時～4時30分。

編集後記

○「甘え」はおそろしい。

若い女は自分にちょっと難かしいと思ったらすぐ男にたのむ。

老人はこの傾向が強い。たとえ自分に出来ることでも、若いものにまかせて、自分はとび直っている。若いものは年長の人のいうことだからと思って「はい、はい」と代ってあげる。

これが老人をダメにしてしまう。こころを、からだをフヤけさせる。

○休みに入って朝からジョギングする人が増えた。まことに健康のためにも、よい計画とその決心に敬意を表する。

願わくば休みが過ぎても永く続けられんことを祈るものである。

「継続は力なり」

○「西南戦争」岡本秋徳氏。薩軍が津奈木を通ったのは別府晋介の指揮する先発隊であったろうか。西郷隆盛は馬に乗って、薩摩の方から薩摩街道をからだをガクつかせながら通っていったという話がのこっている。

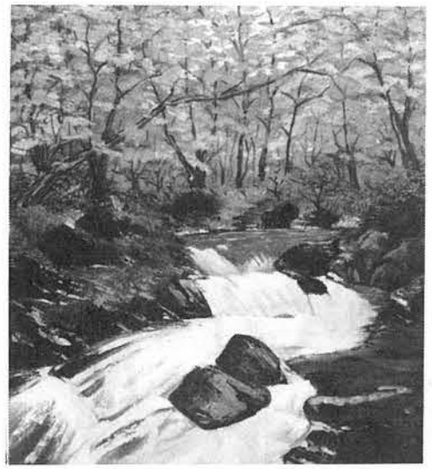
○七月二十三日、芦北郡内小学校の先生方が四十人余、津奈木町の歴史・文化・産業について視察研究された。見学場所は次の通り。

1千代塚　2亀万酒造所　3舞鶴城　4古中尾水源（修験場）　5重盤岩眼鏡橋　6久子の小みかん原木　7鎧が崎　8署橋　9冷凍工場　10将軍神社　11天子宮　12神田の神石

庁舎美術館（十四）

秋の溪谷

浜田吉男作



三階廊下に展示

ふるさとの花 つわぶきを植えませんか！

去る七月二十二日、倉谷、上下門、内野地区で「高齢者の役割対策事業」の一環として、本町の町花「つわぶき」を午前中山に採集にいかれ、午後からそれぞれ各地区公民館に集合し、一時から地区親子会にも呼びかけられ、子供達と一緒に「つわぶき」を道路沿い等に植え付けられました。皆さんの地区でも町花を植えてみませんか。

「つわぶき」を植える子供達

婦人会の歴史（一）

岡松カキ

津奈木町婦人会の発足は大正九年九月十二日になっている。

その目的は、温和柔順の婦徳を養い、進んで公益事業に尽瘁し、以て本村自治の発展に資し、併せて会員相互の親睦を計るを目的とす。

会員は、本村居住の主婦

事業

1通俗講演会　2敬老会

3品評会　4軍人遺族援助

5学校生徒の就学奨励6その他

会の目的についてはあまり変ったとは思わないが、その事業ではやはり時の流れを感ずる。今は品評会はあまり見ない。また就学奨励などは不思議に思うでしょう。

大正九年でまだ津奈木あたりでは小学校に入学するものが全部ではなかったので婦人会で援助した。

このように婦人会の事業は、時勢に応じ、時の流れに従って定められた。発足以来約七十年、その間にかの大東亜戦などがあり、わが婦人会も大きく動いた軍人遺族の援助はいうもさらなり、町の発展に寄与したこともまた大きいものがあった。

ある時の如き、税金の集まりが悪いと聞いては、婦人会が協力したことがあり、生活改善に手を出し良俗の保存、経費節約に資したことは大きいものがある。

これらについてはゆっくり述べてゆきたい。

この「かぎりなくやさしい花々」という本は、実際の体験をもとにして書かれているので、本当に私の心の奥に響き、感動させられた本である。

筆者の星野さんは若い頃中学校の体育の教師で、放課後、部活動の練習で宙返りをしたとき、ちょっとした事故で頸髄損傷という怪我を負い、首から下が動かなくなってしまった人です。しばらくは不安という文字をかかえて、何の希望もなしに生きていた星野さんは、口で文字を書くということで生きる希望を見いだしたのです。

たくさんの文字を練習した後、一文字が心豊かな詩に、そしてはなやかな花の絵などに変わっていきました。そして、星野さんの絵や文字が展覧会に出品され、今では素適な奥さんと結婚までされました。

——中略——

かぎりなく やさしい花々

津奈木中　三年　柳迫美鈴

この広い世界には、星野さん以外にも障害を持った人がたくさんいます。町などでよく見かけるとき、私は「かわいそう」という言葉しか頭に浮かんできません。しかし、その前に考えることがあるような気がします。それは、自分に与えられた運命の山を登り切るために、私達の想像以上に必死に生きる道を見つけ、一歩一歩その道を歩んでいるということです。

自分の考えの間違いを正しく導いてくれた星野さんに感謝したい気持ちでいっぱいです。

世界いびき学会名誉会長 池松先生パリへ

津奈木町赤崎生れの荻町育ちと自から喧伝される耳鼻咽喉科医師池松武之亮先生のことは、数年前この館報でも紹介された。

いびき博士として、テレビにも再三出演しておられるが、二年半前の八五年六月、米国のマイアミで開かれた第十三回世界耳鼻咽喉科学会より招待され「いびきの臨床三十年」と題して記念講演をされました。

それがきっかけで七月六～八日パリで開かれる、第一回世界いびき学会の名誉会長に推戴され、講演もマイアミでは英語で話したが今度はパリが会場だからフランス語で発表すると、フランス語の練習にチャレンジするという頑張り屋。七五才と仰るが、その気概にはただただ敬服あるのみです。

先生の晴れの国際舞台での御活躍と御成功をお祈りしたいと思います。

女児も乗り廻す一輪車

先月十台の一輪車が赤崎小学校へ届いた。日本体育施設協会からである。

これは、日本学校保健会評議員や同会平衡機能研究委員をなさっている池松先生の御斡旋によるもので、同校では、台数が増え、女児も乗れるようになったと大喜びである。

（文責　松崎）

西南戦争（二）

薩軍出陣

岡本秋徳

明治十年二月十四日は旧暦では正月二日にあたる。一般の暮らしは従来の旧暦によって行われていた。この年は異例の気象で、連日の寒波の襲来は降雪となった。

この日、鹿児島の伊敷村玉江練兵場（旧藩時代）では朝九時から歩兵五個大隊と砲隊・荷駄隊（幡重隊）の主力部隊が集合して、陸軍大将の正装をした西郷隆盛以下各大隊長の薩軍出陣のための閲兵が行われた。

その編成について簡単に述べると、最大単位は大隊で、一個大隊は一〇個小隊から成り、一個小隊の兵員二百人、したがって一個大隊の兵員は二千人、当時の政府軍の最大単位は連隊で、薩軍の一個大隊は、政府軍の一個連隊の兵力に匹敵する。

一番大隊　指揮長陸軍少将篠原国幹（当初大隊長のことを指揮長といった）
二番大隊　指揮長村田新八　三番大隊　指揮長永山弥一郎　四番大隊　指揮長陸軍小将桐野利秋　五番大隊　指揮長池上四郎　砲隊兵員四百人　四斤山砲二十八門　野砲二門　臼砲三十門　荷駄隊　隊長桂久武（元島津家家老加判役）
本営　陸軍大将西郷隆盛　副官別府晋介　同仁礼景通・護衛兵五〇人（各隊選抜の兵員）

このほかに鹿児島医学校校長英人医師ウイリアム・ウイリスの助手たちが軍医として従軍している。

「明十五日から日を逐って出陣する」という命令が各隊に伝達された。出陣については道路がせまいうえに、途中の各村の宿泊能力が低いために、各大隊が毎日逐次出てゆく、十五日に出発するのが、一番大隊と二番大隊、十六日が三番大隊と四番大隊、十七日が五番大隊と砲隊、荷駄隊、それに西郷隆盛の本営である。出発はいづれもその日の午前六時に私学校本営に集合して、午前八時に熊本にむかって行軍を開始する。そのように指示された。閲兵式は午前十一時すぎ終了した。

この日午前六時に加治木の綱掛川の河口付近の広場にあつまった加治木・横川の郷士軍独立二個大隊二千人が別府晋介の指揮で全軍の先鋒になり出発している。先発隊の進路は、横川をへて大口より肥後水俣に出、三太郎を越えて八代を通り熊本に到るというものである。

薩軍の総兵力一万三千、日本最強の士族軍団である。

オーストラリアの女子高生 通学とても楽しい！

自転車で通学の シャニィー・グリヒルさん

津奈木町に初めてのオーストラリアの女子高校生が滞在。

今年四月から、県立水俣高校に自転車で通学、オーストラリヤから来たシャニィー・グリヒルさん十七才。シャニィーさんは、民間の交流団体の交換留学生として、三月に来日。ホームステイ先は、倉谷地区の竹永純雄さん宅。

すでにごぞんじの方もおられますが、元気に友達と通学されております。学校内では生徒達の注目の的とか、特に男子生徒は彼女と話しをしたくて、英語の勉強に夢中とのこと。学校内での生活は、まわりのみんなが親切で、やさしいので学校がとても楽しいとのことです。又自転車通学は健康的で何よりも津奈木の皆さんが良く挨拶をして下さるので、とても喜しいと言っておられました。

将来は小学校の先生になり、もし日本に又来たら英語を教えたいとのこと。趣味は本を読んだり、手紙を書いたり、ピアノ、ホッケー等が好きで、尊敬する人は「両親」とすぐ答えがかえってきました。食事は何でも食べてくれますと奥さんは安心しておられ、特に赤飯、もちが好物だそうです。

おどろいたのは、週に四通も両親に手紙を書いておられ、現在まで二百通位出したとのこと。両親からも同じ位届いており、小遣はほとんど郵便代になっているそうです。ホームスティ先では、お父さん、お母さん、ジュンちゃんと家族の方をなれない日本語で呼んでおられました。

肥後狂句

堀双岳選

着順

好かん　飲めばからんでこらすけん
そわそわ　何か隠しておるごたる　鳥居雲波
好かん　チかくしといたが　ようしたもん
そわそわ　よそに百万生れても　岡松拙者
好かん　気位ばかり高うして
そわそわ　口笛合図のある時分　失名氏
好かん　なまこ見せたらはってェた
そわそわ　今日からパパになるとばい　堀双岳

次の笠

眠りかぶって　虫の声　一笠二句

八月末まで、公民館又は選者宅へ（倉谷）堀双岳宛。

短歌

小嶋正弘選

旅馴れぬ吾にはあれどみちのくの兄のいまはを看とらんと発つ　西滋子

山形の桜散りゆく花の道兄の柩をしづかに送る　西滋子

折々は長寿をよろこび折々はうら悲しさよ老の明け暮れ　鳥居保

物みなが充ちて豊けきこの御世に人の心の何と荒める　鳥居保

赤尾島久方訪いぬ新校舎海に燿う車道もあらた　宮崎優

柔かき若葉のごとし草樹萌え時計よ暫しそのままにいよ　宮崎優

わが負いし孫は吾より背高し秋雨の中もやい傘して　柳迫いづも

かけ声をかけつつ坂を登りゆく老のおとろえかみしめながら　柳迫いづも

すがれたるままに置かれし鉢植のランタナに小さき芽を見出しぬ　野田浦子

裏庭の目覚めに見にし花うつぎ若葉となりて春の雨降る　野田浦子

ひもすがら新茶炮じしわが家の夕餉の卓に香り漂う　福田ヤエ子

ひとときを吊りたるままに置かれたる風鈴は緑の風に鳴るなり　白浜美和子

花ふぶく湯の児の桜並木路孫七人と共に歩きぬ　寺本ツルヲ

見上ぐれば碧めにしむ五月空高く泳げり緋鯉真鯉は　福田ヤエ子

逞しく育て職の絵のごとく矢旗はためく空を見上ぐる　福田ヤエ子

山裾の花の狭間を汽車はゆく四月一日夢あたらしく　福田ヤエ子

悪たれのわれをかばいし母の眼のやさしさ思うこよい母の日　小嶋正弘